

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。 1. 確かな学力の育成～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力を育成する 2. 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢の育成～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する 3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域との連携を大切にし、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

2 中期的目標

激しく変化する社会において個性を輝かせて活躍するため、生徒一人ひとりが「自考自走」できるよう教育活動を展開する 1. 確かな学力と主体的に学ぶ姿勢の育成～基礎・基本の充実、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力を育成する （1）3年間の学習目標と学習計画「寝屋川高校スタンダード」に基づいた効果的な教科指導を行う （2）学習支援クラウドサービスを活用し、学習意欲・学習習慣を身に付け、自学自習の力を育む （3）1人1台端末等 ICT 機器の積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る （4）授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす （5）講習、補習の計画的な実施とともに内容の充実を図る （6）新学習指導要領や観点別評価の確実な実施、大学入学共通テストに繋がる確かな学力を身に付ける ※大学入学共通テスト 対全国平均得点率令和 9 年度には 15%アップ（R4 9%・R5 11%・R6 13%） 2. 夢と志を持つ豊かな人間力の育成～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する （1）時代の変化に対応する 3 年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む （2）生徒主体のホームルーム活動及び行事の企画運営や生徒会活動・部活動を充実させ、自立心や主体的に行動する力を養う （3）人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神・グローバル社会に対応できる生徒の育成を図る （4）文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させ、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る （5）社会貢献やボランティア活動、地域連携、各種コンテストなどに積極的に参加させ、人間力の向上を図る （6）文化的・芸術的活動や読書活動を推進し、幅広い教養や豊かな感性を持った生徒の育成を図る ※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（R6 96.9%）を令和 9 年度も 95%を維持する。（R4 82.3%・R5 94.8%・R6 96.9%） ※「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率を令和 9 年度には 95%にする。（R4 92.8%・R5 90.8%・R6 93.5%） 3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切にし、生徒の生きる力を引き出し育てる学校 （1）組織目標と成果の共有・協働の推進による質の高い教育を実践するため、RPDCA サイクル(各教科・学年・分掌)で取り組む （2）教職員の組織的・継続的な人材育成により課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り、教員力のさらなる向上を図る （3）安心安全で魅力ある学校づくり・教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる （4）広報戦略を再検討し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等で継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する （5）教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する ※職員全体時間外在校等時間を前年度比で 5 %減 （6）DX ハイスクールの指定を受け将来のモデルとなる教育活動を研究するとともに、校舎改築にあたり教育庁・PTA・同窓会・地域等と情報を共有して進める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 確かな学力と主体的に学ぶ姿勢の育成	(1)効果的な教科指導の実施 (2)自学自習の育成 (3)系統的・効果的な教科指導の確立 (4)教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上 (5)講習、補習の計画的実施と内容の充実 (6)確かな学力の定着	(1)各部署が連携し、各学年・各教科等の学習目標と計画・観点別評価のマトリクスを策定し、生徒・保護者に示す。 学力向上に向け、各学年・教科で指導内容・方法等を確認のうえ改善する。 (2)年 2 回到達度テストと振り返りを実施することにより、弱点補強と学習意欲の向上を図る。 (3)各教科・進路部の研修により、学習支援クラウドサービス等での学習支援を定着させる。 (4)指導と評価の一体化定着のため、公開授業・研究協議を全員で行い、授業力の向上を図る。 (5)計画的な講習と授業以外の進路サポートの体制を充実させる。 (6)新学習指導要領のねらいを踏まえ、全教科で共通テスト対策を実施する（得点率をあげることで受験第 1 希望校の合格率を維持）。	(1)(教職員自己診断)「教育目標を共有し、組織的に取り組む」85%以上維持 [87.3%] (生徒・保護者自己診断)「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒・保護者 85%以上維持 [87.9%・84.1%] (2)(生徒自己診断)「自分で計画を立て、家庭で学習する時間」78%以上[77.6%] (3)(生徒自己診断)授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」90%維持 [90.8%] (4)(授業アンケート)「授業に集中している」90%以上維持[93.6%] (教職員自己診断)「各教科で学習指導計画や評価を十分に議論」80%以上 [79.6%] (5)(生徒自己診断)「講習・補習」95%以上維持 [97.4%] (6)大学入学共通テストの全国平均に対する得点率 15%アップ [13%] 国公立大合格率の向上[23.5%]	

府立寝屋川高等学校

2	夢と志を持つ豊かな人間力の育成	(1) 3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上 (2) 自立心や主体的に行動する力の育成 (3) 豊かな心や人権尊重の精神・グローバル社会に対応できる生徒の育成 (4) 生徒のコミュニケーション能力の育成 (5) 人間力の向上 (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進	(1) 基本的な生活習慣や規律(挨拶・時間・清掃・感謝・貢献)が進路実現に繋がるよう全職員で生徒を支援する。 総合的な探究の時間を核に学年・分掌を横断した主体的な学びを実施し、将来の生き方選択に繋がるキャリア教育を進める。 (2) 生徒会が中心に全日制と定時制の連携を図るとともに、制服着用の見直しや学校行事の活性化を進める。 近隣の小中学校や地域との連携を実施する。 部活動を通じたリーダーの育成を進める。 (3) 3年間を通じた人権教育の構築と全ての教育活動にユニバーサルな視点を取り入れるとともに、組織的な国際交流活動を充実させる。 (4) 1人1台端末等を活用したプレゼンや生徒の発表の機会を設定する。 (5) 授業や部活動を通してコンテストへの参加を積極的に呼び掛け、参加の機会を設定する。 寝屋川市や福祉施設など外部との連携交流を推進する。 (6) 2年生;芸術鑑賞 3年生;文楽鑑賞をはじめ、読書マラソンや図書館活動を充実させる。	(1) 年間遅刻回数 1500 件未満をめざす [1437 件] (生徒自己診断)「自分のスケジュールを管理、学校行事・部活動・学習を両立」75%以上維持[75. 5%] (生徒自己診断)「進路選択を相談する機会」95%以上維持 [95. 8%] (2) (生徒自己診断)「学校行事に積極的に楽しく参加」95%以上維持 [96. 2%] 小中連携事業の実施 (生徒自己診断)「部活動で人として成長」90%以上維持 [94. 1%] (3) (生徒自己診断)「人権教育」95%以上維持 [96. 9%] 海外研修を含めた国際交流活動の実施 参加者の満足度 90%以上維持 [豪州 96. 5%] (4) 探究学習・人権学習及び英語スピーチコンテスト等の実施 (生徒自己診断)「考えをまとめ発表する機会」90%以上維持 [93. 5%] (5) 外部のコンテスト等への参加促進 寝屋川市との様々な連携事業を 2 団体以上実施 [2 団体] (6) 全員対象の読書コンクール・読書ページに応じた読書マラソンの実施	
3	学校力のパワーアップ	(1) RPDCA サイクルの推進 (2) 教員力のさらなる向上 (3) 安心安全で魅力ある学校づくり (4) 継続的な生徒・保護者・中学生・地域等への発信 (5) 「働き方改革」の推進 (6) 校舎改築の進行管理及び、将来のモデルとなる DX ハイスクール事業の推進	(1) 学校の魅力化を図るため、学校の課題を洗い出すとともに学校教育自己診断、学校運営協議会の意見等を学校運営の改善に反映させ、学校組織を活性化させる。 各学年・分掌・委員会の「総括」をもとに、個人だけでなく、組織(分掌・学年等)目標を立て取組みを改善する。 (2) ミドルリーダーや経験年数の少ない教員の育成をもとに学び続ける集団づくりを行う。 府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。 (3) 教育相談に係る理解を深め共通理解を進めるため、ケース会議や教員研修を実施する。 予想される自然災害等に備え、防災に関する LHR を計画し、生徒の防災意識を高める。 (4) 学校案内・学校説明会のリニューアル、保護者向けメールの徹底周知を図る。 寝屋川市や地域との連携で生徒の活動を支援する。 (5) 各学年・分掌内における業務の精査及び部活動方針の遵守により、働き方改革を進める。 (6) 校舎改築・教育設備の充実及びトイレ改修等について、教育庁・PTA・同窓会・地域等と連携して進める。 DX ハイスクール指定を受けて、生徒の学びの意欲を喚起させる実践的な教育を行うとともに、引き続き調査・研究を進める。	(1) (教職員自己診断)課題対応 80%以上[79. 7%] (教職員自己診断) RPDCA サイクルの改善志向 80%以上 [79. 5%] (教職員自己診断)目標共有 80%以上維持 [87. 8%] 学校教育自己診断の職員提出率 100% [83. 1%] (保護者自己診断)「学校は保護者の願いや期待に応えようと努力している」85%以上 [84. 3%] (2) 地域行事や学校説明会への教員の参加 校内研修を 5 回実施[5 回] (3) (教職員自己診断)「教育相談体制」90%以上維持 [93. 8%] (生徒自己診断)「教育相談」88%以上維持 [88. 0%] SNS を利用しての安否確認の実施 [1 回] (4) ホームページ等における生徒の活動等について更なる充実を図る。 寝屋川市や地域と連携した生徒会活動の実施 (生徒自己診断)学校行事に積極的に参加している 95%以上維持 [96. 2%]【再掲】 (5) AI を活用した校務削減の検証を実施 時間外勤務時間を昨年度比 5 %減 [9 %増] 時間外勤務月 80 時間超の教員の数の前年度比 5 %減[5 %減] (6) 先進校等の調査・研究活動、視察等の実施 校舎改築計画及びトイレ等改修の推進 高等学校 DX 加速化推進事業に係る「データサイエンス入門」集中講座の実施 (生徒自己診断)「寝屋高生であることを誇りに思う」強い肯定率 50%以上 [42. 7%]	